

令和6年度 4学年授業改善プラン

大田区立矢口小学校

1. 昨年度の授業改善プランの検証

- 【国語】漢字の読み書きは、反復練習により定着しつつあるが、文章を整えて書くことに課題がある。
- 【社会】日常生活に関連付けて考えることができる場面が増えた一方で、社会の学習用語を十分に理解させる必要がある。
- 【算数】既習事項を確かめ、繰り返しの復習により、知識や技能の定着につなげることができた。しかし、一部の児童は、四則演算の基本的な計算力が定着していないので、引き続き反復練習を継続させる。
- 【理科】理科の学習用語を十分に理解させる必要がある。また、実験結果をもとに自分の考えをまとめたりすることに課題が残る。

2. 大田区学習効果測定の結果

教科	国語			社会			算数			理科		
全体	◎			▽			◆			▽		
観点別	◆	◎	◆	▽	◎	▽	◆	◎	◎	▽	▽	▽
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

◎ 正答率平均が目標値を上回った教科・観点

◆ 正答率平均が目標値と同程度の教科・観点

▽ 正答率平均が目標値を下回った教科・観点

3. 各教科の授業改善プラン

(1) 国語・社会・算数・理科

- 【国語】文章を書く機会を増やし、漢字の読み書きや言語の活用も併せてすすめる。個人差がみられるため、個に応じて反復学習を繰り返していく。
ペア・班・クラス全体等、場面に応じて一人一人が発表したり、書いたものを読み合ったりして互いの考えの共通点や相違点を意識させ、自分の考えが深められるようにする。
- 【社会】日常生活に関連付けて考えさせ、自ら判断する学習場面を設定する。
学習したことや調べて分かったことなどを振り返りで確認し、社会の学習用語の意味や資料の読み取り方など知識の定着を図る。
- 【算数】学習内容によって、単元の導入の仕方を習熟度別グループごとに工夫する。習熟の個人差が大きいため、習熟度別グループ学習を取り入れる。レディネス調査を行い、実態によって既習事項を確かめてから学習に入る。スモールステップ学習を実施し、知識・技能の習熟を図る。
- 【理科】「問題→予想→観察・実験→結果→考察→まとめ」という問題解決を図る手順を習慣づける。その際、既習事項や日常生活に関連付けさせながら根拠のある予想を立てさせる。
デジタル教材を効果的に活用し、動画等を通して具体的なイメージをもちやすくさせた

り、ドリルパークを活用したりして知識の定着を図る。

(2) 音楽・図画工作・体育

【音楽】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆ 合唱の技能について、集団による差が見受けられる。 ○ 聞き合って声を出すことに注力した歌唱活動を取り入れる。	◆ 思いや意図をもって表現することが苦手である。 ○ 曲想表現方法を多く学習し、実際の演奏に生かしていく。鑑賞学習で I C T 機器を利用する。	◆ 正確性を求める児童が多く、音楽的表現の幅が広がらない。 ○ 様々な演奏を多く聞かせ、自己の演奏の目標をもたせていく。

【図画工作】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆ 一人一人の実技における技能の差が見受けられる。 ○ 実技の指導時に I C T 機器を活用し視覚的に分かりやすい指導を丁寧に行う。	◆ 発想や表現の差が見受けられる。 ○ 自分のイメージや表わしたいことを表現できるように、個別の指導を丁寧に行う。	◆ うまくいかないときあきらめてしまう児童の姿が見受けられる。 ○ 一人一人の児童の活動に目を配り、励まし、ほめ、声掛けをする。作品の完成時に鑑賞の時間を取り、自他の作品のよさを味わう時間を設ける。

【体育】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆ 個人差が大きい。走・投の技能や経験の少なさからマットや跳び箱、鉄棒など回転系や巧技系の技に苦手意識がみられる児童が目立つ。 ○ 運動に触れ合う機会を増やす。児童間で学び合う場を設定し、集団で高め合う。	◆ 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫することが苦手な傾向がある。 ○ 学習カードを活用し、自分に合った目標を設定し、取り組めるようにする。	◆ 主体的に取り組む児童が多い中、苦手意識から受け身な児童もいる。 ○ 達成感をもてるように目標を細分化したり、積極的にみんなで声をかけたりして、みんなのできた体験を増やす。